

静岡県山岳連盟
〒422-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL(FAX)054-288-7512
編集発行/総務委員会
平成25年3月25日(月)発行



当日は御殿場駅集合時に降っていた雨も太陽に照らされ、気温も上がり、水溜りや凍結の心配もなく、苦勞するも無事終了。開会式にて講師紹介、



2日目も晴天に恵まれ、早朝6時より行動を開始し、箱根連山に登る朝日を見て双子山の斜面まで登高。アイゼンを着けての雪面歩行

午前中は初級・中級レスキューに別れて、それぞれ研修を行った。初級には、静岡市消防局の救急隊員等が、ロープワーク・負傷者搬送法・AEDの3グループに分かれて講習をうけた。少し時間が足りなかったようだが、



参加の皆さんは真剣にレスキュー技術の習得に取り組んでいた。中級は天気が良いので屋外に出て、ロープをつかい振り分け救助法・悪場での登下降のセルフレスキュー・支点の構築等、小人数ながら中身が濃い研修会

限られた時間の中での研修会でしたが、それぞれ学んだ事を、各会にて繰り返し練習をしていく事を願います。また、講師の方々、指導員の方々お世話になりました。(堀内)

第52回冬山登山講習会 御殿場口双子山で開催 安全登山に冬山技術習得

第52回冬山登山講習会及び第50回登山指導者講習会が2月2日(土)～3日(日)に掛け富士山御殿場口双子山周辺に於いて開催された。参加者は初級B・中級に8名、高校生連顧問に7名、高校生63名及び役員・講師を含め総勢101名となった。

当日は御殿場駅集合時に降っていた雨も太陽に照らされ、気温も上がり、水溜りや凍結の心配もなく、苦勞するも無事終了。開会式にて講師紹介、

2日目も晴天に恵まれ、早朝6時より行動を開始し、箱根連山に登る朝日を見て双子山の斜面まで登高。アイゼンを着けての雪面歩行

午前中は初級・中級レスキューに別れて、それぞれ研修を行った。初級には、静岡市消防局の救急隊員等が、ロープワーク・負傷者搬送法・AEDの3グループに分かれて講習をうけた。少し時間が足りなかったようだが、

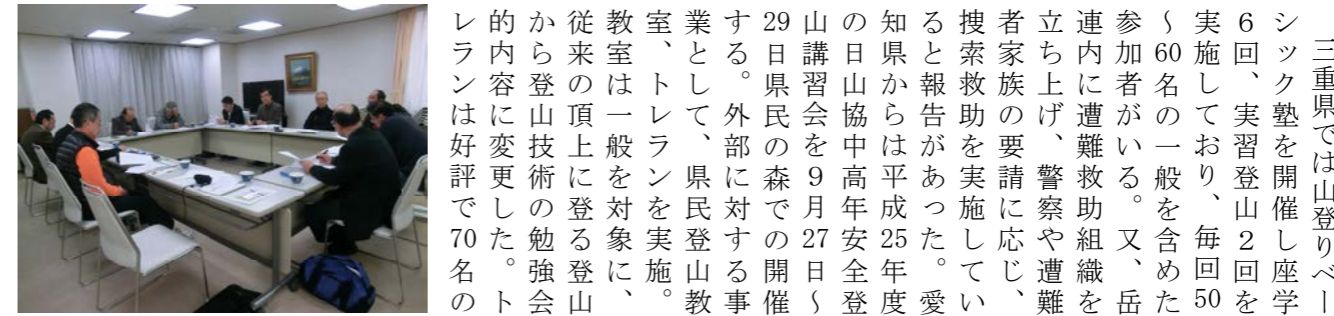
2月常任理事会

日時 平成25年2月18日(月) 18時30分～20時20分
会場 静岡労働政会館5F 会議室
出席者 滝田博之、塩沢寿雄、木ノ内高嘉、前川朝夫、豊田 稔、工藤誠志、増田浩二、大石一博、諸戸 明、加藤弘司、田中保広、松永義夫、小谷田佳一、小田直美、清水雄三、高橋 弘、坂田 昇、計18名
会長挨拶
*今年度の事業がほぼ終了しましたが、各委員会等の事業残分宜しくたのみます。
(1) 報告事項
① 指導委員会
少年少女の登山教室は中止した。
*指導員研修会計画どおり実施、参加者約30名。コンテ、滑落停止の指導法、登山用語の英語化について研修。
*前回課題となった「安全登山呼びかけ」関連事項まとめ「総務」に渡した。

*冬山登山訓練計画どおり実施。(参加、高校生、社会人63名)
② 海外トレッキング講習会
* 茨城生涯学習センターで実施・山学同志会 大宮氏講演「海外トレッキングの楽しみ方」
* 参加者約30名
③ 日山協評議員会
* 公益法人化4月より実施、登山界の先陣で実施したい、社会から頼られる組織にしたい。
* 未組織登山者も対象活動は遭難減少の活動・子供の指導。
* 今後は「評議員会」は廃止、「理事会・総会」で運営、各県の理事長主体の全国会議。
* 今年度から各県の決算書を提出する。
(2) 協議事項
① 平成24年度初級・中級山岳セルフレスキュー研修会
* 3月9日(土) 9時～17時、場所 興津生涯学習交流館
* 募集・初級 60名、中級 20名
研修概要 午前は各級ともロープワーク

後は共通の講演会
② 平成24年度競技委員会ブロック別研修会
* 3月2日～3日開催・三重県 2名・愛知県 2名・岐阜県 1名・静岡県 5名 合計10名・日山協の高山氏出席
③ 東海ブロック正副会長・理事長会議
* 3月16日～17日、今回は静岡県が担当
* 議題・各県の事業内容と課題を討議
④ 平成25年度・国体について(諸戸氏)
* 東海ブロックは静岡県が担当、実施予定日は7月20日～21日、実施場所は浜松市
* 県予選会、日時5月3日(金) 場所は浜松市、詳細は別紙案内書
⑤ 平成25年度スポーツフェスタ(工藤氏)
* 担当・東部地区、「検討書」作成・内容9月第二週「富士山古道」六合目まで
* 一般市民対象に9月7日(土)～8日(日)、募集は県・市の広報誌に掲載する
⑥ 平成25年度県岳連総会について

* 各委員会は4月8日まで「平成24年度事業報告・決算」「平成25年度事業計画・予算」を事務局に提出
⑦ 平成25年県岳連カレンダー
* 販売数334部収益は15万1千670円
⑧ 岳連ニュース：白黒の写真が見難い
⑨ 丹沢ボッカ駅伝競走大会について：別紙案内書
⑩ 山岳共済会の山岳保険案内：別紙案内書
(3) その他
* 理事会終了後に各委員会開催。(坂田)



形で会議が進められた。三重県では山登りベアシック塾を開催し座学6回、実習登山2回を実施しており、毎回50～60名の一般を含めた参加者がいる。又、岳連内に遭難救助組織を立ち上げ、警察や遭難者家族の要請に応じ、捜索救助を実施している報告があった。愛知県からは平成25年度の日山協中年安全登山講習会を9月27日～29日県民の森での開催する。外部に対する事業として、県民登山教室、トレランを実施。教室は一般を対象に、従来の頂上に登る登山から登山技術の勉強会の内容に変更した。トレランは好評で70名の参加があった。
* 各県の事業でタイアップして実施できるものは一緒にやりたいとの希望があった。各県とも日山協の公益法人化を受け一般人を対象とした登山教室の開催の話題が多くでした。
編集後記
岳連ニュース「宝永」が復活して早や1年が過ぎ、当初計画していた年4回発行はクリアできた。事業担当の方々にはお忙しい中、原稿を寄せていただき、お礼申し上げます。引き続き岳連の活動の様子を会員の皆様にお届けしていきますのでご支援、ご協力をお願いします。(tk)

高校ボルダリング競技会 男子田邊 優勝

女子中村 優勝

第6回静岡県高校ボルダリング競技大会が、2月11日(日)に静岡市のボルダリングジムのJAMにて、県内の中学生・高校生の54人が参加して開催された。国体のボルダリング競技の実施とともに、競技力向上のため実施しているものである。競技方法は、県国体選手倉島氏のセッティングによる12課題(6級から1級・初段まで)のセッション形式の予選(男女共通、1時間20分間)、その結果により4ルートによるベルトコンベア方式の決勝を行った。本年は参加者も増え1時間20分はやや短く、時間との勝負の予選となった。男子は、予選12ルートを時間内に唯一人完登した鈴木正信(浜松日体)をはじめ、8人が決勝に進んだ。女子は7ルート完登の中村(曳馬中)、望月(富士宮西)をはじめ、6人が決勝に進んだ。決勝は4分間のオンサイ

男子		
1位	田邊匡律	浜松日体
2位	鈴木正信	浜松日体
3位	吉田隣生	浜松日体
4位	伊藤優輝	浜松日体
5位	沖健太	富士宮西
6位	山田直也	浜松日体
7位	西沢祐紀	浜松日体
8位	山田 碧	浜松日体
女子		
1位	中村祐香梨	曳馬中
2位	望月香菜子	富士宮西
3位	北脇順子	浜松日体中
4位	佐野知美	富士宮西
5位	村野加奈	富士宮西
6位	小山紗莉	富士宮西

トのベルトコンベア方式で、2ルートを最初のトライで完登した田邊(浜松日体)が優勝し、続いてトライ数で鈴木が続いた。女子は3ルートを完登した中村が優勝した。ボルダリングのレベルは年々向上しており、運営側も学ばなければいけない事が多いと感じさせられた1日であった。

トレッキング講座静岡市で開催 海外トレッキングの楽しみ方

2月17日(日)午後1時30分より、静岡市内の葵生涯学習センターにて、海外トレッキングの楽しみ方講座が開催された。これは岳連の海外登山委員会が主催し、市岳連、JAC静岡支部、静岡労山の協賛を得て実施するもので、昨年に続く海外トレッキング講座の開催で約30名が受講した。今回は日本山岳協会海外常任委員の大宮求氏を講師に迎え、「海外トレッキングの楽し

み方」と題して、数多くの海外登山やトレッキング経験から、楽しいばかりではないトレッキング中の落とし穴、注意すべき点について講話いただいた。氷河モレーンのトレッキングでは、氷河特有の複雑な地形のため離れ離れになると危険な状況に陥ること、国内と違ってザックだけ置いて安易に離れると貴重品盗難の恐れがあることなど、経験に基づいた的確な説明がなされた。結果は次の通り。
男子1位 田邊匡律(浜松日体高)
2位 鈴木正信(浜松日体高)
3位 吉田隣生(浜松日体高)
女子1位 中村祐香梨(曳馬中)
2位 望月香菜子(富士宮西高)
3位 北脇順子(浜松日体中) (諸戸)

た。出発前の心がけとして日程、コース概要を事前に熟知すると共に、通過する地名を知っておくことも大切とのアドバイスがあった。また、空港での手荷物検査等、行動中の所持品についての心がけについても大変参考になった。

大宮求氏は山岳同志会OBであり、講演後のネパールトークでは現役時代に成し遂げた数々の記録についても語ってもらった。谷川岳滝沢第三スラブ積雪期単独登攀は、気象条件、山のコンディション、登るタイミングを見極めた緻密な計画に基づいたものであったこと。旧ソ連時代ソチ



登山家の名言

勇気と力だけがあっても、慎重さを欠いていたら、それは無に等しいということをお忘れないうでいて欲しい
エドワード・ウィンパー

日山協評議員会報告 公益法人移行・会員数拡大へ

平成25年2月17日(日)、日山協の評議員会が東京渋谷カンファレンスセンターにて開催されましたので報告します。

この評議員会は、毎年一回日山協の総会前に開かれ、全国の各県山岳連盟の理事長クラスの人が出席して、日山協の新年度事業計画案や予算案について、執行部側と卒直な意見交換を行う場となっております。

最初に、日山協の神崎会長から挨拶があり、日山協は、平成25年4月1日から公益社団法人になる。この為、従来の組織内ばかり眼を向けていた事業運営から、積極的に社会に打って出る組織体制に変えていく必要があると強調していた。

また、日山協は登山界の中で積極的にリーダーシップを取っていく。

国内には、日本山岳会、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤ協会及び日本山岳ガイド協会等の山岳諸団体が有るが、日山協は、その先頭に立つ覚悟でいると決意を語った。

公益社団法人になると、予算の50パーセント以上を、公益目的事業に使わなければならないということがある。ある評議員から出た『日山協が主催する、各種委員会への参加旅費は、日山協の会計から支出できないか。』という質問に対し、『執行部側の答弁は『旅費等は、事務局経費に含まれるので、この支出が増えると、公益目的事業に充てる予算が圧迫を受けるので、今以上の支出は難しい。』とのことであった。収入に見合った支出というの難しさを感じた。

今後は、未組織登山者を対象にした安全登山講習会や青少年女登山教室の開催など社会から親しまれる組織に変える努力が一層求められていくものと思われる。

次に、日山協の加盟登録者の増加策の考え方について説明があった。文科科学省の発表によると、全国の登山愛好者数は、八百万人あるという。これに対し、日山協へ加盟登録されている登山者数は十万人と少なく、その割合は1%強である。このため未組織登山者の囲い込みをしてゆきたいとのことである。

その一つとして、山岳共済への個人加入者が三万三千人有るので、この人たちを年会費千円位で日山協へ個人加盟してもらおうよう、個人会員制度を設けたいとのことであった。次に、次代を担う子供たちの育成を組織的に行うために、スポーツ少年団の結成を各県

各地域で出来ないか検討したいとのことである。現在、鹿児島県山岳連盟では、クライミング少年団を育成しており、20名の団員が活動している。

終わりに、年々盛んになるトレラン事業を、日山協の主催事業とするための指針作りを進めているとのことである。(塩澤)

ブロック別研修会

平成24年度の日山協競技委員会ブロック別研修会が3月2日(3日、静岡リハビリ専門学校)で開催され、東海4県から10名が参加し、日山協からは競技委員長の高山氏が講師として



て参加した。この研修会は通常、競技運営研修と審判員認定研修が実施されるが今年は審判研修に参加者がなく運営研修のみとなった。

初日は昨年の岐阜国体の運営状況を中心に進め、2日目は競技規則の変更と山岳競技の課題について研修した。岐阜国体の初日台風の直撃の予報が出たため、少男のリード競技の予選を決勝に代え、少女のボルダ予選を18時から実施するなど台風対策を行ったという。大会はワールドカップで優勝した選手が多く出たため非常にハイレベルの争いとなり会場を沸かせた。

研修の中で、リード競技の順位決定方法を現在の個人順位合計から到達高度合計にする案が提示され東海での意見を求められた。個人順位方式はチーム順位が逆転することがあるが、2人の選手が登った到達高度の合計は絶

対的なもので分かりやすく、全員一致で到達高度に賛成した。国体の監督への公認資格の保有義務付けが今年の東京国体から完全実施となるが、認定予定者や受講中の者はみなし規定があるので県体協に相談して欲しいとのこと。

ルールの改正では県予選会から選手登録の義務を課すようにし、アテンプト時の上着に競技用ユニホームの着用を求めているが、今回の改正で下半身の着衣も正式ユニホームの着用が義務化された。

その他、小中体連の組織化、日山協によるクライミングジムの認定の方向、クライミングジムの組織化(協会)ブロック研修会の開催頻度を2年に1回やブロックに関係なく開催。審判認定をビデオで審判状況を研修し認定する方法など日山協では様々な検討がされていることの説明を受けた。